

# 委託事業実施内容報告書

## 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 広島市役所

#### 1. 事業名称

外国人市民の日本語能力向上支援事業

#### 2. 事業の目的

外国人住民が集住する地域では、日常生活でのトラブルの発生や外国人住民の社会参加が課題となっている。地域日本語教室や日本語ボランティアは、各地域において外国人住民の支援や多文化共生に重要な役割を果たしている。そこで、地域日本語教室の活性化やネットワーク化に取り組み、外国人住民の支援体制の充実を図る。

#### 3. 事業内容の概要

外国人支援に重要な役割を果たす地域日本語教室及び日本語ボランティアに対して、スキルアップやネットワーク化に向けた支援事業を実施する。また、新たな日本語ボランティアの養成と地域日本語教室の開設に向けた支援事業を実施する。地域日本語教室の体制の整備に当たって、広島市、(財)広島市未来都市創造財団及び(公財)広島平和文化センターが連携して、より効率的かつ効果的な事業実施を図る。

○取組1:日本語ボランティア養成講座 A

○取組2:日本語ボランティア養成講座 B

○取組3:日本語ボランティアスキルアップ講座

○取組4:日本語ボランティアネットワーク事業

#### 4. 運営委員会の開催について

【概要】別添1のとおり

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月9日 14:00~16:00	2時間	(財)ひろしま国際センター	竹内 修 常本 誠 山田 克己 犬飼 康弘 岩田 一成 新川 勝次 太田 陽子 國光 隆寛	日本語ボランティア養成講座B、日本語ボランティアスキルアップ講座、及び日本語ボランティアネットワーク事業の検討	(1) 各講座の概要説明 (2) 講師の選定、プログラム素案についての意見交換 (3) 実施スケジュールについて

2	平成 24 年 8 月 16 日 14:00～16:00	2 時 間	広島市船越 公民館	竹内 修 常本 誠 湯崎あゆみ 山根眞裕美 間瀬 尹久 岩田 一成 上田 篤志 國光 隆寛	日本語ボランティア 養成講座 A の検討	(1) 講座の概要説明 (2) 講師の選 定、プログラム素案につ いての意見交換 (3) 実施スケジュールにつ いて講座実施に向けての地 域団体等との連携協力に ついて
3	平成 25 年 2 月 2 日 13:00～15:00	2 時 間	広島市船越 公民館	竹内 修 常本 誠 湯崎あゆみ 山根眞裕美 山田 信利 間瀬 尹久 上田 篤志 國光 隆寛	日本語ボランティア 養成講座 A 及び日本語 ボランティア養成講 座 B の検討	(1) 日本語教室活動の立ち上 げの糸口とするための効果 的な講座の展 開について (養成講座 A 関連) (2) 地域の日本人住民と外国 人住民のより有意義な交流 を創り出すための参加促進 方策について (養成講座 B 関連)

## 5. 取組についての報告

### ○取組1:日本語ボランティア養成講座 A

#### (1) 体制整備に向けた取組の目標

公民館、地区社会福祉協議会と連携し、外国人市民が地域活動への参加をしやすい環境づくりを進める。

#### (2) 取組内容

外国人市民が多く集住しながら日本語教室がない地域において、日本語ボランティアの経験や興味のある地域住民を募集し、外国人住民の現状や多文化共生の研修、外国人住民との交流などを通して、日本語ボランティアの基礎を学ぶ。

#### (3) 対象者

日本語ボランティアの経験、関心のある地域住民

#### (4) 参加者の募集方法

- 広島市ホームページに案内を掲載
- 広島市広報紙「市民と市政」(安芸区版)に掲載
- 公民館だより、案内チラシを地域に配布

#### (5) 参加者の総数 15 人

(出身・国籍別内訳 日本 14 人、日系人 1 人〈アルゼンチン〉)

#### (6) 開催時間数(回数) 6 時間 (全 3 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	場所	参加人数 (国籍)	概要
1	平成 25 年 2 月 2 日 10:00～12:00	広島市 船越公民館	10 人 〔 日本 9 人 日系人 1 人 〕	コミュニケーションの第一歩 ①「多文化共生」地域の現状 ②「相手の立場を知ろう」
2	平成 25 年 2 月 16 日 10:00～12:00	広島市 船越公民館	12 人 〔 日本 11 人 日系人 1 人 〕	どうやって日本のことを知ってもら う？ 「やさしい日本語」
3	平成 25 年 3 月 2 日 10:00～12:00	広島市 船越公民館	15 人 〔 日本 14 人 日系人 1 人 〕	普段のコミュニケーション ①「声掛け(きっかけ)」 ②「日常生活の常識の違いに気付く」

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

講座の冒頭で広島市及び地域の外国人市民の現状についてわかりやすく説明を受け、地元には予想以上に多くの外国人住民が共に暮らしていることを知り、驚いた表情を見せる参加者が多かった。また、何の前置きもなく講師が中国語で話してくる場面では、どうしてよいかとまどったり、フラストレーションがたまって不快感を訴える参加者もいた。これは講師が意図して行った活動であり、日本語が全く分からない外国人の立場がどういうものかを実感できたとともに、そういう人たちに対してどういう話し方、接し方をすることが大切かについて体験を通して考えるよい機会となった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

回を増すごとに参加者も少しずつ増え、最終回には留学生を迎えてグループごとに話し(交流)をしたが、とてもよい時間となった。後のグループ化(日本語ボランティアの活動)に向けて意欲がある参加者が多く、今後の展開期待できるものとなった。

(10) 改善点について

次年度の活動へ向けて展望が開けたことなど、日本語教室活動を立ち上げるためのきっかけづくりとして成果があった。今回の成果を活かすため、次年度も継続的に支援していく体制を維持し、活動の充実を図る必要がある。

○取組2:日本語ボランティア養成講座 B

(1) 体制整備に向けた取組の目標

公民館が中心となって、地区社会福祉協議会や中国帰国者の会、学校等が連携し、日本語支援の充実を図る。

(2) 取組内容

外国人比率が高く日常的なトラブルがある地域において、日本人と外国人との交流事業を実施し、多文化共生の推進役の人材を育成し、日本語教室の支援者として位置づける。

(3) 対象者

地域住民

(4) 参加者の募集方法

公民館だより、案内チラシを地域に配布

(5) 参加者の総数 34 人

(出身・国籍別内訳 日本、中国、中国帰国者 \*国籍別人数は不明)

(6) 開催時間数(回数) 9 時間 (全 6 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	場所	参加人数 (国籍)	概要
1	平成 24 年 10 月 15 日 10:00 ~ 11:30	広島市 中央公民館	16 人 (日本、中国、中国帰国 者)	日本と世界の歌を通じた交流
2	平成 24 年 11 月 12 日 10:00 ~ 11:30	広島市 中央公民館	26 人 (日本、中国、中国帰国 者)	日本と世界の歌を通じた交流
3	平成 24 年 12 月 10 日 10:00 ~ 11:30	広島市 中央公民館	20 人 (日本、中国、中国帰国 者)	日本と世界の歌を通じた交流
4	平成 25 年 1 月 21 日 10:00 ~ 11:30	広島市 中央公民館	18 人 (日本、中国、中国帰国 者)	日本と世界の歌を通じた交流
5	平成 25 年 2 月 18 日 10:00 ~ 11:30	広島市 中央公民館	34 人 (日本、中国、中国帰国 者)	日本と世界の歌を通じた交流
6	平成 25 年 3 月 11 日 10:00 ~ 11:30	広島市 中央公民館	26 人 (日本、中国、中国帰国 者)	日本と世界の歌を通じた交流

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

講座開始当初は参加者にも表情に硬さが見られ、声も控えめな感じであったが、講師の軽妙な語り口と誘導により雰囲気も次第に和んでいった。それにつれて参加者の声量も増し、立ち上がって振付をつけながら歌う参加者の姿も見られた。歌が人と人とのつながりを深める上での有効なツールになることを改めて感じることができ、有意義な交流事業となった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

最終開催日が3月11日にあたり、震災のキャンペーンソングや手話を取り入れた曲を含め、歌によって世界がひとつになる音楽交流ができた。また、歌を通しての日本語指導の方法は、楽しく日本語を学べる指導方法として参考になるものだった。

(10) 改善点について

- 一般事業では外国人市民の参加が少ないため、帰国者グループ2団体へ案内を行い参加を募った。(参加者募集の工夫)
- ルビをふってもプリントの文字が読めない、歌がわからない参加者もいたので、通訳を配置する必要がある。

○取組3:日本語ボランティアスキルアップ講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

公民館と地域日本語教室が連携して、地域日本語教室の充実を図る。

(2) 取組内容

日本語ボランティアが不足している日本語教室において、ボランティア養成を図るとともに日本語教室に参加する外国人住民とともに地域行事等に参加し、外国人住民の社会参加の促進を図る。

(3) 対象者

日本語ボランティアとして活動している又は興味のある地域住民

(4) 参加者の募集方法

- ホームページ掲載
- 公民館だより、案内チラシを地域に配布

(5) 参加者の総数 20 人 (出身・国籍別内訳 日本20人)

(6) 開催時間数(回数) 6 時間 (全 3 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	場所	参加人数 (国籍)	概要
1	平成24年10月7日 13:00～15:00	広島市 真亀公民館	15人 (日本)	韓国を知ろう！ハングル入門
2	平成24年10月21日 13:00～15:00	広島市 真亀公民館	19人 (日本)	もっと知りたい！韓国のこといろいろ
3	平成24年11月25日 13:00～15:00	広島市 真亀公民館	10人 (日本)	日本語教師の海外生活体験談 ～ニュージーランド・インドネシア・ ラテンアメリカ

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1, 2回目は韓国の歴史や文化等、幅広く学ぶことができた。You Tube で韓国の歌を聴き、みんなで歌えたことで一体感が強まった。3回目はあまり馴染みのない国についての話があり、異文化理解が一層深まった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

講師二人の講座の進め方、資料の作成など、講座の内容がボランティアにとって实际的で参考になるものであり、スキルアップの一助となった。また、これから日本語ボランティアの活動を始めたいという参加者もあり、日本語教室の活性化にもつながった。

(10) 改善点について

日本語ボランティアとしてのスキルアップの到達目標をより明確にし、それに応じた講座のプログラムを構成する必要がある。

#### ○取組4:日本語ボランティアネットワーク事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

広島平和文化センターと連携し、地域日本語教室及びボランティアの活性化とネットワーク化を促進し、外国人住民の支援体制の充実を図る。

(2) 取組内容

市内にある地域日本語教室のボランティアが一堂に会し、共通した課題についての研修や情報交換を行うとともに、ネットワークの拠点として広島平和文化センターから活動状況を発信する。また、日本語ボランティアに興味のある人にも参加を呼びかける。

(3) 対象者

日本語ボランティアとして活動している人及び日本語ボランティアに興味のある人

(4) 参加者の募集方法

- 広島市及び(公財)広島平和文化センターのホームページ掲載
- 案内チラシを各日本語教室へ送付

(5) 参加者の総数 45 人

(出身・国籍別内訳 日本38人、中国3人、韓国2人、フィリピン2人)

(6) 開催時間数(回数) 6 時間 (全 3 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	場所	参加人数 (国籍)	概要
1	平成25年1月20日 14:00～16:00	広島平和文化センター —	25人 〔日本23 韓国2〕	災害時における外国籍市民支援 ～東日本大震災の事例から～

2	平成 25 年 1 月 27 日 14:00~16:00	広島平和文化センター	27 人 〔日本 25 韓国 2〕	災害時の準備と『やさしい日本語』
3	平成 25 年 2 月 10 日 14:00~16:00	広島平和文化センター	28 人 〔日本 21 韓国 2 中国 3 フィリピン 2〕	外国人市民の社会参加を促す日本語活動

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

第1回では、東日本大震災の経験談や具体的な事例を紹介していただきながら、災害時に実際どのような外国人支援が必要となるのかについてわかりやすく講義していただいた。

第2回では、災害時の「やさしい日本語」についてワークショップを取り入れ、実際にやさしい日本語に書き換える練習を交えながら講義していただいた。第3回では、外国人市民の社会参加を促す日本語活動について、ワークショップを交えながら講義していただいた。また、講師が主催する日本語教室の学習者も参加し、実際の教室での体験を紹介してもらった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

- 日本語ボランティアとして活動している人だけでなく、関心がある人も参加対象としたため、昨年度より多くの人に参加してもらうことができた。
- 参加者の感想は、「とても勉強になった」「今後に活かしたいと思った」「具体的な事例や活動などについて学べてよかった」など、よい評価であった。
- 講座のワークショップや講座終了後に、日本語ボランティア同士の情報交換が積極的に行われ、ネットワーク化が一層促進できた。

(10) 改善点について

現在日本語教室で活動しているボランティアの人だけでなく、活動に関心がある人も参加対象に含めたため、幅広く参加があったことはよかったと思う。しかし、日本語教室相互の連携・協力関係づくりの観点からすると、今後でもできるだけ多くの日本語教室から参加してもらえるよう、事業のテーマ設定や参加呼びかけにおいて工夫が必要である。

## 6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

外国人住民が集住する地域では、日常生活でのトラブルの発生や外国人住民の社会参加が課題となっている。地域日本語教室や日本語ボランティアは、各地域において外国人住民の支援や多文化共生に重要な役割を果たしている。そこで、地域日本語教室の活性化やネットワーク化に取り組み、外国人住民の支援体制の充実を図る。

(2) 事業目的の達成状況

地域の実態に即した講座が開催でき、課題解決に向けた具体的取り組みの方向性や方法を見出すことができた。また、新たに日本語ボランティア養成もできた。ネットワーク事業

では、日本語ボランティアを災害時の外国人支援の重要な役割を果たすボランティアとしての意識付けができた。

今後は、地域日本語教室の活性化とネットワーク化の充実を図るには、短期間の単発的な取り組みでは不十分であるため、今年度の事業の成果を活かした継続的な事業展開や日常の活動を行っていく必要がある。

(3) 地域における事業の効果、成果

外国人住民が集住していながら日本語教室がない地域においては、今年度の取り組みを受けて活動を続けてみようという人材を発掘することができた。今後も引き続き効果的な支援を行うことにより、活動の拡大が期待できる。

また、本事業で行った取り組みをきっかけとして、外国人住民が地域活動へ参加しやすい環境づくりが進むとともに、各地域日本語教室が災害時の心構えなど扱うことで、外国人住民の意識の高揚や知識の習得に繋がる。

(4) 改善点、今後の課題について

これまでの取り組みを発展的に継続していくことが重要であることから、各地域の実情に応じた効果的なプログラムを再検討し、取り組みを充実させていく必要がある。

また、日本語に不慣れな外国人に対する日本語指導・支援を市全体として体系的に整備する必要がある。

(5) その他参考資料

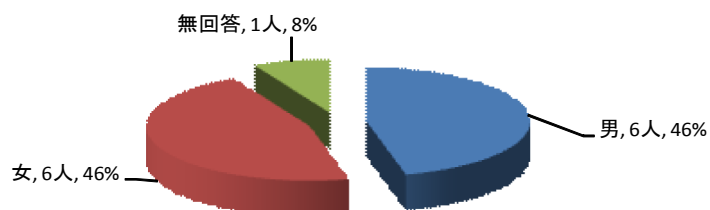
※アンケート添付



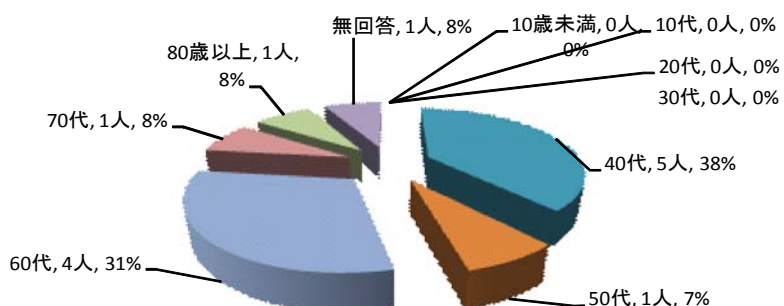
事業名      ご近所の外国人の方とのコミュニケーションはとれていますか？  
参加者アンケート集計結果

参加者数 15人

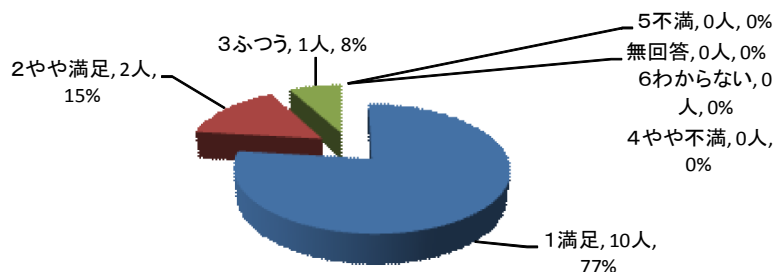
性別	男	6人
	女	6人
	無回答	1人
	合計	13人



年代	10歳未満	
	10代	
	20代	
	30代	
	40代	5人
	50代	1人
	60代	4人
	70代	1人
	80歳以上	1人
	無回答	1人



満足度	92.31%	1満足	10人
		2やや満足	2人
		3ふつう	1人
		4やや不満	
		5不満	
		6わからない	
		無回答	



- 理由は:
- ・広島弁で盛り上がったこと
  - ・何げなく話していた日本語について、やさしい日本語のつくり方を学びました。
  - ・もっと簡単に日本語を教えられると思っていたが、やさしい日本語で話すのは難しかった。ゆっくりはっきりやさしい言葉で話そうと思いました。
  - ・楽しかった。
  - ・きっかけになった。
  - ・実践をかねての講座に参加できて良かったです。
  - ・日本人・外国の方とのコミュニケーションができた。
  - ・グループでの話し合い
  - ・講師のご説明良かった。
  - ・自分に役立つ成果を得られた。(ゆっくり、やさしく話す努力が足りないことを痛感できた)

[illegible]